

第51回 福岡市 華道展

平成29年 5月31日(水)
～6月5日(月)

入 場 無 料

時間 10:00 ～ 19:00

場所 アクロス福岡
2F 交流ギャラリー
メッセージホワイエ
1F アトリウム

【交流ギャラリー・メッセージホワイエ】

[前期] 5月31日(水)～6月2日(金)

[後期] 6月3日(土)～6月5日(月)

【アトリウム】

[前期] 6月1日(木)～6月2日(金)

[後期] 6月3日(土)～6月4日(日)

●前期と後期で、すべての作品が
入れ替わります。

●6月2日(金)と最終日は17:00閉場

51年の歴史を誇る福岡市華道展は、22流・会派の作品が一堂に会する「いけばなの祭典」です。

福岡華道の全容が一望でき、流派の個性や表現を一度に鑑賞できるのが醍醐味。子どもの作品を含め、

自然美あふれる約230作品が集結する光景は、圧巻です!

また、アクロス1F吹き抜けスペース(アトリウム)に並ぶ大作が、いっそう華道展に彩を添えます。

世界に誇る日本の伝統芸術「華道」の世界をご体感ください。



草真流

代表者 後藤 覚徹

初代後藤覚徹が「花形から美を求めるのではなく、植物のもっている美を引き出すことから花形ができる」とし、植物のまことを表現することを目指して草真流を創流しました。

植物から受けるエネルギーと瞬間の美にメッセージを込めてお花を活けております。

和室だけでなく現代の住宅空間を意識した作品にも力を入れ、家庭はもちろん会社や店舗などにオシャレないけばなの展開をしています。



池坊

代表者 佐藤 華春

華道家元池坊の歩みは、日本のいけばなの歴史そのものです。今から約550年も前の1462年のこと、池坊専慶の花を、洛中の好事家たちがこぞって見物したことが、京都・東福寺の禅僧の日記「碧山日録」に記されています。

また、天文年間に活躍した池坊専応は、「美しく咲いた花だけでなく、蕾にも朽ちた花にも命があり、それぞれの美しさがある。敬虔な心を寄せて花をいけることで、自らの心も磨かれる。ここにいけばなの神髄がある。」と説きました。

以来、多くの先達の努力によって池坊のいけばなは成長と発展を遂げてきました。



一草流瓶花

代表者 吉開 尚洞

季節ごとに多種多様な植物に出会える私たちは、一輪の花を「器に挿す」和みの心を味わったり、数種の素材と花器を取合せ空間の中に「美」を形成する「活ける」機会にも恵まれます。

一草流のいけばなは、明るい感じ 愛情を持たせ

品位を備えて 詩情を盛り込みたい

を基本に、創作の喜びを体感できるいけばなとして、1935年(昭和10年)5月地元福岡において吉開寛洞の創流。以来多くの方々に親しまれ今日があります。



鳳馨流

代表者 中島 慧山

寒かった冬、暖かな春、やがて訪れる強烈な夏の日差し、錦を織り成す秋、この恵まれた月日を過ごす事が出来る日本。日々の営みの中に、思い出の花がきつと在るはず!!

それは何色です?



嵯峨御流

代表者 阿刀 寛明

嵯峨御流のいけばなは、古い歴史を背景として嵯峨天皇に源を発し、旧嵯峨御所・大覚寺に伝わる伝統を、その心としています。

嵯峨御流のいけばなは、古典の花も、新しい花形も包含し、日本国内はもちろんのこと、海外にも広く親しまれています。

四季の変化による美しいいけばなは、その装いを千変万化いたします。私たちはお互いの暮らしの中に、いけばなのうおいを取り入れて、老人には安らぎを、子供には美しい情操を、そして働く人々には活動の意欲をと、いけばなのよるこびを会得していただけるならば、大きな幸いと存じます。



清徳池坊

代表者 田崎 幽山

初代家元永瀬幽巖が大正6年上京し清徳式家元岡本樵雲氏に師事し、盛花、投入、茶花を修得する。昭和初期対馬巖原の婚家にて多数の門弟を作り戦後福岡に居を構え昭和30年岡本氏より清徳式家元を継承する。その間池坊六角堂にて生花を会得したので池坊の名をいただき、昭和35年清徳池坊とする。昭和40年より海外で華展に参加し各国との交流を深める。昭和天皇のアメリカ旅行に随員し華道使節の大任を果たす。昭和61年世界。孫の田崎幽山を代表として福岡をはじめ京都、大阪等の門弟がその発展に全力を尽くしている。



華道専正池坊

代表者 丸野 玉昭

専正池坊は、現在四代目諸泉祐園が継承。

伝統を重んじる格調高い立華、生花、心に潤いをもたらす自然花、自由花、彩花、ロイヤルフラワーアレンジメントと多彩にあり、時代と共に進化し飾って楽しい花、心よい花を勉強。紹介しております。



東山流

代表者 千葉 一伸

東山流は、江戸中期頃、初代千葉一流により創流されました。現在は七代目家元になります。

花型は、伝承されている生花と盛花、自由花に分けられます。

生花は、主となる枝の半月型と前に流れ出る枝が大きな特徴です。いづれの生け方も、花の持つ自然の美しさを尊重し、四季折々の花を通して心豊かになれるいけばなをと思っています。